

令和2年度 阿武町立阿武中学校 学校評価書 校長(山下恵美)

1 学校教育目標  
 教育目標…高い志をもち、つながりを大切に阿武町っ子の育成  
 中・長期目標…美(場を清める)礼(礼を尽くす)時(時間を守り大切に)  
 ~笑顔あふれる学校~  
 ○生徒・教職員・保護者・地域が誇りをもち学校(阿武中PRIDE) ○生徒一人ひとりが自己実現をめざす学校(阿武中で学んでよかった)

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)  
 【学校】[よさ]教育環境の整備・充実 [課題]地域連携(地域貢献、学校支援、学校運営の機能)の推進、「開かれた学校」づくり  
 【生徒】[よさ]落ち着いた学校生活 [課題]学力向上、コミュニケーション能力、家庭学習(宿題)の充実  
 【教師】[よさ]職務に専念、チームワーク [課題]わかる、生徒の実態に応じた授業改善  
 【保護者・地域】[よさ]活発な地域行事、学校教育に関する理解と支援 [課題]情報提供・発信、課題の共有

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題  
 ①確かな学力の育成(基礎基本の定着、学習に向かう意欲の醸成、主体的・対話的で深い学びの実現をめざす授業実践)  
 ②心の教育の充実(魅力ある道徳授業・評価の研究、ローテーション授業や地域人材を活用した多様な道徳的価値観に触れる授業づくり)  
 ③町の力となる生徒の育成(系統性のある総合的な学習の時間の実践、コミュニケーション能力の育成、地域貢献ボランティア活動の実践)  
 ④小中連携教育の推進(育てたい子どものビジョンの共有、英語教育を核とした連携)

4 自己評価					5 学校関係者評価		
領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	評価	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望	評価
学校運営	チャレンジ目標	チャレンジ目標(美・礼・時)を徹底する。	・毎朝の唱和 ・チャレンジ目標の掲示 ・学期ごとの達成度の確認	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 3】チャレンジ目標 生徒よりも教職員の評価が低い。あいさつ・返事などに課題を感じているが、学校全体で徹底した指導ができていない。	3
	CSの推進 家庭・地域との連携	家庭・地域と一体となった「開かれた学校」づくりを推進する。	・ホームページや学校だよりによる情報発信 ・学校サポーターの活用と拡充	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 3】地域連携① 教職員の評価は高くなっている。保護者や地域にとって実際に行われている様々な活動や取組とCSと結びついていない。発信力不足である。	
	地域貢献の推進	ボランティア活動や地域行事への積極的な参加など地域貢献を推進する。	・自己有用感をもたせる 事前、事後指導 ・部活動練習日の配慮 ・学校だよりを通じた情報発信	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 4】地域連携② コロナウイルス感染防止のためボランティア活動の機会が少なかった。しかし、参加した生徒たちには一定の自己有用感や達成感を得られている。	
	小中連携の推進	小学校と連携した教育実践を推進する。	・英語授業への定期的な参加 ・日程の調整(5校時開始時間)	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 3】小中連携 生徒は合同運動会を高く評価している。保護者や地域への取組の発信が課題である。	
学習・心	学力向上	一人ひとりを大切に「わかる・できる・楽しい」授業への改善を図る。	・「阿武中スタンダード」の徹底 ・ICTを活用した授業改善 ・自学ノートの奨励	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	2	【2. 9】授業改善・学力向上・学びの保障・特別支援教育 生徒の興味や思考に寄り添った授業改善は教科によってばらつきがある。ICTを活用した授業改善は進んではきているが、生徒はもちろん保護者や地域の方々にも実感できないのが現状である。	2
	道徳教育の充実	多様な価値観に触れることができる魅力ある道徳授業を実践する。	・全教員によるローテーション授業や地域人材を活用した授業実践 ・ねらいを達成させる発問の工夫	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	4	【3. 5】道徳教育 生徒・教職員共に評価が高い。プロジェクト校として年間を通し、講師を招聘して「考え、議論する」授業づくりやローテーション授業、地域人材を活用した授業に取り組むことができた。	
	学校行事・感動体験の充実	生徒の主体性を伸ばし、充実感・感動を味わえる行事を充実させる。	・ねらいや付けたい力の明確化 ・他の教科や活動と連携させた指導 ・事後指導の充実	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 3】体験活動 1学期末と比較すると、保護者・生徒・教職員で評価が高くなっている。コロナ禍においても工夫しながら実施した各種の学校行事にある程度の評価が得られたのではないかと。	
環境・安全	生徒指導の充実	きめ細やかな生徒理解を基本にした生徒指導を推進する。	・毎朝の情報共有 ・週1アンケートによる実態把握 ・生徒指導主任を中心とした組織的な対応	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 3】生徒理解 「全生徒を全教職員で育てる」の原則のもと、日々のコミュニケーションや週1アンケート、デイリーライブを通して生徒理解や支援を進めているが、学年により若干の温度差が見られる。	3
	生徒の主体性の育成	主体性を育む学級・生徒会活動を推進する。	・学級活動の充実 ・生徒会、委員会活動の活性化	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 1】生徒会活動 生徒自身が主体的に取り組めるような教師の仕掛けが必要である。活動の意義・目的についても、生徒に届くよう働きかけていきたい。	
	環境整備の充実	校内の環境整備を計画的に実践する。	・環境整備委員会の活性化 ・地域や保護者と連携した活動の充実	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 4】環境整備・学校安全・コロナ対応 環境整備委員会と救高校奈古分校や地域の方との花壇整備活動を実施した。今後も計画的に実施していきたい。	
健康・体力	生徒のメンタルケア	スクールカウンセラーと連携した相談活動を充実させる。	・客観的な資料の活用 ・週一アンケートの共有 ・相談時間の確保	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	4	【3. 5】教育相談 今年度も思春期グロウイングハートプロジェクト(GHP)により、各学年の生徒の実態や課題に応じた自己理解、自己開示に関する授業が実施できた。	4
	生活習慣の改善	学校や家庭における規則正しい生活リズムを定着させる。	・生活リズムチェック、睡眠日誌、ノーマディアチャレンジの実践 ・保護者への情報発信	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	4	【3. 6】学校保健 家庭との連携による生活リズムチェック、睡眠日誌、ノーマディアチャレンジの実践により生徒の意識に高まりが見られた。	
	部活動の充実	目標や意欲をもって生き生きと取り組む部活動を推進する。	・部活動休養日(週2日)の設定 ・顧問2人体制 ・部活動指導員の活用	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 3】部活動 生徒、教員共に高い評価である。一方で保護者や地域の方の評価が低くなったのは、多くの試合が中止になり、活動の様子が発信ができなかったためと思われる。	
業務改善	会議運営の効率化	会議時間の適正化を図る。	・事前検討のための企画会の設置 ・勤務時間内の会議の設定	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 4】業務改善 今年度、長期休業中に企画会を実施し、大きな議題については事前検討がなされた。また、勤務時間内に会議を行うことができた。	3
	時間外業務時間の削減	職場環境の整備と業務分掌の平準化を図る。	・キャリアや能力に応じた業務分掌 ・早く帰りやすい、休みやすい職場の雰囲気づくり ・ノー残業デーの徹底	4 評価アンケート3. 5点以上 3 評価アンケート3. 0点以上 2 評価アンケート2. 5点以上 1 評価アンケート2. 5点未満	3	【3. 0】業務改善 平均時間外勤務時間は平均47.1時間で45時間を若干越えており、昨年に比べても5時間程度増加している。業務の平準化や事務処理の効率化が課題である。	

6 学校評価総括(取組の成果と課題)  
 コロナ禍にあって本校の特色である地域貢献ボランティア活動の機会は減ったが、総合的な学習の時間で取り組んだ「ふるさと学習」や2年生の「子ども議会」等の学習を通して、地域を見つめ、地域のために何をすべきかを一人ひとりが考え、行動することができた。また、「やまぐちっ子の心を育む道徳教育」プロジェクト推進校として全教員による研究授業や年3回講師を招聘して「考え、議論する」授業づくりやローテーション授業、地域人材を活用した多様な道徳的価値観に触れる授業づくりにも取り組むことができた。また、不登校傾向生徒の実態や特性、保護者の思いにより添いながら、SCや関係機関と連携した担任の粘り強い支援の成果が徐々に現れてきた。  
 一方で依然として授業改善、学力の定着と向上は本校の大きな課題である。iPad等のICTを活用した授業改善や能力に応じた個別指導の充実を推進していきたい。さらに、来年度から「学習指導要領」が全面実施され、「子どもたちにどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組んでいく「指導と評価の一体化」の実践も課題である。また、そうした授業改善の状況やCSの取組等を保護者や地域にわかりやすく、リアルタイムに発信したり、授業や活動に気軽に参観、参加したりしていただく機会を作っていくことも必要である。

7 次年度への改善策  
 ①学力の定着と向上(iPadを活用した授業改善と個別指導の充実、家庭学習の質の向上、学習規律の徹底)  
 ②道徳授業の充実・深化(「考え、議論する」授業 やまぐちっ子の心を育む道徳授業推進校)  
 ③カリキュラム・マネジメントを通じたキャリア教育、総合的な学習の時間の充実(身に付けさせたい力の明確化 地域人材の活用)  
 ④情報発信の工夫(HPの改善、学校だより等各種たよりの活用)  
 ⑤業務改善の推進(業務の平準化、行事の見直しと改善、定時退庁の奨励、事務処理の効率化)